

令和7年11月19日(水)  
令和7年度 東京都発達障害者支援地域協議会

令和7年度

## 東京都成人期発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業 活動報告

- ①専門人材育成・実地研修
- ②情報収集・提供
- ③ネットワーク構築・運営



### ①-1. 専門人材育成研修・実地研修 ※ハイブリッド開催

2 すべてハイブリッドで開催だが、オンライン参加者が7~8割を占める/★:正夢の会さんの研修日程と重複

開催日	内容	講師 敬称略	参加総数
8月24日(日)	厚生労働省発達障害支援施策からみる医療と福祉の連携	加藤 永歳(社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会事務局次長・元厚生労働省発達障害対策専門官・公認心理師)	30機関 41名
	発達障害専門外来の現状と課題	加藤 進昌 (公益財団法人神経研究所 理事長・精神科医)	(医師18名)
9月21日(日) ★	限局性学習症:臨床事例を中心に	丹治 和世(公益財団法人神経研究所附属晴和病院 副院長・精神科医)	23機関 29名
	発達性ディスレクシアの生物学的原因、大脳機能障害部位、認知障害、診断評価から合理的配慮へ	宇野 彰(NPO法人LD Dyslexiaセンター理事長・元筑波大学教授・医学博士・言語聴覚士)	(医師11名)
10月19日(日) ★	ASDにおける語用論の特徴	沖村 宰(昭和医科大学 発達障害医療研究所 講師・精神科医)	19機関 25名
	計算論的視点からみた神経発達症の理解と支援	山下 祐一(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第七部 精神科医)	(医師11名)
11月23日(祝)	ASDとカモフラージュ	当事者	機関 名
	社会的カモフラージュ/ACAT 成人期への応用	大島 郁葉(千葉大学子どものこころの発達教育研究センター教授)	(医師名)
12月14日(日) ★	発達障害専門デイケアを導入して~開業医の立場から~	後藤 健文(後藤クリニック 院長)	機関 名 (医師名)



### ③ネットワーク運営・構築

#### 5 地区拠点ネットワークの状況

#### 都内医療機関ネットワーク構築のキッカケづくり研修を企画中

##### <診療体制検討協議会>

- 第1回:令和7年5月26日(月) 18:30~19:30 オンライン開催
- ・出席機関:東京都福祉保健局、公益財団法人神経研究所(都拠点)、医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック(区部拠点)、特定医療法人研精会稲城台病院(多摩地区拠点)、成人発達障害支援学会(オブザーバー)
- ・議題:令和7年度研修等実施計画、地域の成人発達障害診療・支援情報共有、発達検査体制整備支援事業の情報共有、専門外来定義・医療機関調査項目等の検討
- 第2回:令和8年2~3月で調整予定

##### <区部圏域連絡会・研修会> 主催:区部拠点医療機関

- 第1回圏域連絡会  
令和7年8月18日(日) 13:00~14:30
- 圏域研修会・第2回圏域連絡会  
※内容調整中

##### <多摩地区圏域連絡会・研修会> 主催:多摩地区拠点医療機関

- 第1回圏域連絡会  
令和7年9月6日(土) 13:00~14:30
- 圏域研修会・第2回圏域連絡会  
令和8年2月11日(祝)
- ※内容調整中

都内医療機関向け  
年度末研修のお知らせ  
3月8日(日)9:50~13:00  
ハイブリッド開催  
ZOOMでも見れます  
東京都発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業

1.開会挨拶  
東京都福祉保健局長兼東京都精神保健医療課課長代理 永谷 善也 様 (事前撮影動画配信)

(9:55~10:00)

2.事業活動報告  
「令和7年度事業活動報告」  
報告者:公益財団法人神経研究所 桑野 大輔  
(発達障害医療コーディネーター)

3.講演  
「自然に「行動」したくなる仕組み  
「ナッジ」の力」  
青森大学 客員教授・青森県立保健大学客員研究員  
竹林 正樹 先生

申込み期限  
3月6日(金)17:00まで

お問合せ先  
公益財団法人神経研究所 研修和啓  
発達障害医療コーディネーター 桑野 大輔  
〒162-0851 東京都練馬区北町1-1  
電話: 03-5372-5219  
メール: tokyo-mw-network@ncp.or.jp

### 中間総括

#### 6

・専門人材育成研修では、例年、参加者が漸減傾向にあったことから、リマインダーとなることを期待して「**毎回の申し込み**」制に変更した。それも影響したのか、2回目以降は申し込みが**微減傾向**となった。申込者の視点に立って(システムの導入を急いだため、申込者視点が欠如していた可能性は否めないこともあり)利用しやすい他のツールへの変更等も検討する。

・偶然、とある**医師が正夢の会**さんで研修されることを知り、研修**日程が重複**していたことが発覚した。地区拠点とは日程調整を入念に確認し合っていたものの、正夢の会さんの日程まで**把握しきれていなかった**ことは次年度以降の改善点であり、他の事業の研修日程との情報共有について関係者と検討・協議を要する。

・医療機関の待機状況は、昨年度の調査結果で課題となった「そもそも『**専門外来**』とは何かという定義」等の**調査項目**において曖昧かつ回答者の判断によることもあったため、**関係者らにご意見をいただきながら**作成となったことから時間を要し、調査時期がずれ込むこととなった。しかしながら、昨年度よりは漠然とした項目が軽減したことから、医療機関の実態を把握することができるとはなにかという期待がある。今後の調査結果を踏まえ、次年度は、調査時期を夏ごろに戻し、安定した調査を実施していく材料としたい。